

## よろしくお願いたします



過日、私の所属する市の医師会長より電話を頂いた。市の医師会長といっても同じ脳神経外科の先輩で、冗談を含め、いつもざっくばらんにお話をさせていただいたり、お酒を一緒に飲んだりさせていただいている先生なので気軽に応じさせていただいたが、用件は「県医師会の広報委員をお願いしたい」という、ちょっと重たいお話であった。「またまたご冗談を！」と思ったものの、どうやら本気のご様子・・・先輩のお願いを断るわけにもいかず、あまり深く考えもせず引き受けさせていただいた。

開業 5 年を過ぎて、ようやく市の医師会の仕組みがわかってきたと思ったら、今度は県の医師会のお仕事である。正直、さっぱりわからない。そもそも組織・構成すらよくわからない。組織・構成すらよくわからない小僧が組織の広報委員・・・やや不安もあったが、月一度の委員会では、委員や理事の先生方には大変よくしていただき、少しづつ仕事がわかり始めている今日この頃である。そして今日は本欄の執筆の仕事。内容は自由らしい。この手の原稿なら医学をとりまく問題や時事問題、さまざまネタはあるであろうが、私は医学をとりまく問題をいきなり滔々と述べるほどの器でもない。時事問題は個人の主義主張もあるし、個人的考えを他人に押しつけるような文章になっては申し訳ない。さて、どうしたものか？・・・と、いいわけがましい文章になってきたが、自由なのであればせっかくなので、今回は自己紹介を兼ねて自分の趣味について書いてみようと思いたった・・・

さて、私が開業して 5 年が経ちました。開業のメリットの一つに、自分の自由な時間が増える、家族と過ごす時間が増えるなどワークライフバランスの向上がよく挙げられます。開業医なんてそんな気楽なものではない、という意見もごもつともですが、私自身は苦勞以上にライフワークバランス向上を実感し、ありがたく感じています。家族と過ごす時間が増えたことも大きな喜びですが、もう一つ嬉しいのは、以前と比べると趣味に没頭できる時間が増えたことです。あまり没頭するのも考えものの趣味なのですが・・・

実は、私は自他共に認める(?) ビートルズマニアで、彼らの現在も発売中の公式品はもちろん、すでに廃盤となったレコード、テープ(カセット、8トラック、オープンリール)、ポスター、チラシ、販促品などなどあらゆるものを収集する癖があり、それを趣味にしています。開業することで、重責はあるものの、24 時間 365 日 on call 体制という環境から 20 年ぶりに解き放たれた私は、水を得た魚のようにビートルズアイテム探しのために休みともなれば全国各地のレコード屋さん(時には海外)に足繁く通うようになりました。普通に売られているものはどうってことはありませんが、いわゆるプレミアもの、ビンテージものを集めるにはなかなか労力を要します。レコード・テープ類はとくに廃盤、日本各地の中古レコード屋さんでコツコツ集めるしかありません。その他のメモラビリアも全国、全世界のどこに落ちているかわかりません。コレクター仲間と情報交換しながらヤフーオークション、eBay、果ては海外オークションハウスのオークションにも目を光

らせ・・・

我ながら困った趣味ではあるのですが、ある種生活の活力にもなっており、「まあ、こんなことで働く活力になっているのであればいいことではないか」と開き直ったりしている始末です。今回せっかくの機会なのでこの場をお借りして、とっておきのアイテムの一つご紹介いたします。

1962年にイギリスでデビューしたビートルズ。長い年月、世界中でそのレコードは売られ続け、90年代からはレコードからCDへと移り変わり、現在では「データ配信」が主流になっています。さまざまな媒体があるわけですが、一番良い音で楽しむことができるのはいったい何か？そう、それはCDでも配信データでもなく「レコード」です。CDも配信もいつでも聴けてノイズも皆無で大変便利なのですが、いかんせんそれらは情報の一部を犠牲にして人工的に造られたデジタルデータであり、本来の音ではありません。最近ではハイレゾ音源とあって、よりオリジナルに近い情報量を持ったデジタルデータもあるのですが、結局のところは究極のハイレゾ音源はアナログデータそのままのマスターテープもしくはレコードなのです。

ただし、レコードでも彼らが解散した後の1970-80年代以降にプレスされたものは一般にあまりよくありません。後期のものほどマスターテープのコピーが繰り返されたものがソースになっているためです。また、マスターに戻って後年新たにレコードが作られたにせよ、マスターテープそのものが時間とともに劣化しており、やはり1960年代、彼らが現役当時にプレスされたレコードが一番音がよいことになります。また、国別の違いもあります。マスターテープは本国イギリスにあり、イギリス以外の国にはレコードプレス用にマスターテープのコピーが送られます。すなわち、日本盤のレコードプレス技術も悪くありませんが、いかんせんその大元のマスターはコピーされた物なのです。ということでやはりイギリスで彼らが現役当時1960年代に新譜として発売されたレコードに勝る物はありません。

さらに話は続きます。レコードの作製過程ですが、マスターテープからまず「ラッカー」がカツ

ティングされ、それを<sup>かた</sup>型にして「ラッカー」→「メタルマスター」→「マザー」→「スタンパー」が作製され、最後にこのスタンパーを型にして、塩化ビニルを素材としたレコードがプレスされます。スタンパー自体はプレスを続けると、へたってきて音は悪くなります。何が言いたいかということ、要するに「1960年代当時、新譜としてイギリスで売られたレコードの中で、なるべく若いスタンパーを使ってプレスされたレコードこそが一番マスターテープに近い究極の音がする」ということです。

前置きがとても長くなってしまいましたが、今回ご紹介するのがこちらのレコードです（写真）。ビートルズのデビューアルバム「PLEASE PLEASE ME」のGold Parlophoneレーベル盤で



す。もちろんそれぞれのアルバムで初盤が存在するわけですが、とりわけこのデビューアルバム初盤は人気があります。黒地に金色の文字で PARLOPHONE と印刷されており、これこそが究極音源のデビューアルバムイギリス盤の初盤であります。発売数か月後には Yellow Parlophone と呼ばれる新しいレーベルに置き換わるので、この Gold Parlophone レーベルのレコードが市場に流通したのはわずか数か月で、その希少価値を高めています。さらにこのレコード、実はもっとも若いスタンプを使用してプレスされた逸品なのです。レコードのランオフ部分（再内周）にはよく見るといろいろな情報が刻印されていますが、そのうちの一つにスタンプコードというものがあり、そこに「1G」と刻印されており（詳細はあまりにマニアックなのでここでは書きませんが）、これが一番最初に造られたスタンプを使用してプレスされたレコードである証拠なのです。興味のない方には「なんのこっちゃ？」でしょうが、このレコード、ビートルズのデビューアルバム初盤のなかでももっとも最初にプレスされたもので、おそらく世界に 100 枚も現存していないのではないかと思います。特に、ここにご紹介する盤はきわめて保存状態が良く、いわゆるマニア垂涎の品なのです。ちなみに前オーナーの話では、このレコード、なんと新譜発売当日：1964 年 3 月 22 日にリバプールで購入されたそうです（その真偽のほどは証明しようがありません）。

その音は・・・実物を聴いていただくしかありませんが、非常に重厚かつ音圧強大、恐ろしく素晴らしい音がします。ただし、一度これを聴いてしまうと他が聴けなくなってしまう恐れ大・・・このように深い深いレコードの世界、ハマると大変なことになりますが、私にとっては仕事の活力になっていることは間違いありません。

なんだかすっかり自慢話になってしまいましたが、最後にちょっと豆知識。ビートルズが所属していたレコード会社は英国 EMI 社です。この EMI、レコード部門以外にテープレコーダーをはじめ、さまざまな機器開発も行っています。この EMI が開発し、医学にも多大な貢献をしてい



るのが、何を隠そう CT scanner です。私が医師になった当時はかろうじて CT の機種名に EMI (エミ) の名前が残っていました。ご存じの通り開発者はイギリスの Godfrey Hounsfield 博士（1979 年にノーベル賞を受賞）で、博士の指揮のもと、英国 EMI 社が 1960 年代半ばから開発をすすめ、1972 年に商業用 CT 1 号機販売にこぎつけています。1960 年代の EMI のドル箱といえば、もちろん世界中で売れに売れていたビートルズ。というわけで、CT scanner はビートルズで得た資金で開発されたと言われています。

最後になんとか医学にむりやりこじつけたところで、本稿を終えたいと思います。

#### 県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店  
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)

TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090

[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>

新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。